

スキー合宿報告

3月16, 17, 18の3日間にわたり、合唱団スキー合宿が行われました。

初参加の堀がレポートします。

▶ 第1日目

今回の参加者は横浜より、新木氏、伊藤氏、長崎氏、野本氏、本間氏、山路氏、堀の7名、現地集合でインストラクターの佐藤氏で合計8名の合宿となりました。場所は、例年通り佐藤氏のスキーの本拠地、青森県のナクア白神スキーリゾート(旧鱒ヶ沢スキー場)でした。

16日の早朝羽田空港集合で、6名は集合しましたが・・・

事件その1 野本さんが居ない？

今回の青森行き JAL143 便は、タラップからでは無くバスでの乗機、6人はそろいましたが「野本さんが来ない！」電話しても最初は繋がらず、幹事の本間さんは青い顔。そのうちやっと電話が繋がりが、「今向かっている、もうすぐ着きます」とのこと、安心したのもつかの間、そば屋の出前で「もう着く」がなかなかすぐとなりません。「とにかく飛行機に乗ってしまおう」とバスに乗り込むと、野本さんにこやかに到着！無事、7名機上の人となり、一路青森に向かいました。

教訓1: 飛行場、バスの乗り場は1階です！

さて、無事青森空港に到着、荷物を受け取りロビーに集合しましたが・・・

事件その2 バスが居ない？

飛行場にはホテルまで連絡するバスが待機しているはずが、影も形も見えません。「どうなってるんだ！」と幹事の本間さん怒りの表情。うろろろすること30分、伊藤さんの駐車場の探索の結果、全く違うところにジャンボタクシーが待機中、出発時間を待っていたとか、せめて情報が欲しかった。無事に7名車上の人となり、一路ホテル&スキー場に向かいました。

教訓2: バスは足を使って探せ！

バスは、快調に走り、一路ホテルに向かいます。とその時、車の窓から岩木山の美しい姿が！皆さん思わず記念写真をパチリ、「こんな場所から岩木山がきれいに見えるのは珍しい」とのこと、今回の合宿の前途を祝福するようです。

約1時間のバスの旅の後、無事にホテルに到着、そこは一気に白銀の世界、いやが上にも盛り上がります。とそこに、どこかで



で、一言「まずはビール？」

さすが日本丸合唱団スキー部、スキー前の準備は欠かしません(練習前の発声練習みたいなものでしょうか？)

見た顔が・・・インストラクター佐藤氏のお出迎え、初参加の堀は感激です！

早速ホテルに入り、まずは身支度。昼食にレストランへ！そこ

ということで、食事を終えて、無事にゴンドラ乗り場に集合です。

事件その3

集合すると、何やら新木氏に対して他のメンバーから昨年の事件についてのコメントが・・・

昨年を知らない初参加の堀は、何のことやら判らずに、とにかくゴンドラで頂上へ。

まずは、全員で集合写真をパチリ！頂上で、佐藤インストラクターの指導の下で準備体操を開始、新木氏の顔が少し引きつり気味です。とにかく、最初は足慣らしに1本滑ることになり、佐藤氏の後について全員が順番に滑り出します。最初の中断地点まで全員で滑り降りると、新木氏は満面の笑顔、他のメンバーも安堵の笑顔！何が何だか判りませんが、私も一緒に安堵の笑顔。いったい去年何があったのでしょうか？？

教訓3: 去年のことはほじくり返すな！

1日目は、足慣らしとのことで、佐藤インストラクターの指導の下、いろいろなコースをゆっくりと滑ります。1日目は晴れたり小雪が舞ったりと変わりやすい天気でしたが、ウィークデーということもあり、ゲレンデは貸し切り状態、こんな素晴らしいゲレンデでこんな状態は初めてです。最後は、上級コースに行くグループと、早く温泉につかるグループに分かれましたが、ほぼ4時くらいに



は1日目は終了しました。

ゆっくりと温泉につかった後は、夜の宴会のスタートです。ビュッフェスタイルの夕食でしたが、8人でゆっく

り座って楽しい食事&宴会でした。

食堂での夕食を終えた後、部屋に戻って2次会の開始です。佐藤氏が競技会で獲得した1升瓶を差し入れしてくださり、いや

が上にも盛り上がります。しかしながら、まだ初日ということもあり、早めに切り上げて明日に備えることになりました。



▶ 第2日目

早起きが得意のメンバーは、朝ご飯にしっかり集合、ビュッフェスタイルの朝食に舌鼓をうった後、第2日目の練習に入ります。

本日から、本格的に佐藤インストラクターの指導が始まりました。

「現在のカービングスキーは、非常に性能が良くなっているが、実際に貴男たちはそのスキーの性能の1割程度しか使用していない。」との講義が始まり、ゴンドラ乗り場のすぐ横で、スキー

取り回し、体重移動、姿勢等についてのシミュレーション指導を受けます。

堀にとっては、スキーの指導を受けることは全くの未経験、インストラクターのお言葉は初めてのことばかり、まさに目から鱗が落ちるような気になりました。(それが実際にゲレンデできるかどうかは別問題なんですけど・・・)

ということで、2日目は、カービングの滑りの徹底練習です。ゲレンデは昨日同様貸し切り状態、ビデオ撮影を挟みながら、レッスンは続きます。お昼に近くなり、早く味噌ラーメンを食べたい！グループと、上級コースに1回行きたいグループに分かれて、午前中の練習は終了しました。

ロッジの食堂で、お約束の味噌ラーメンをいただきましたが、とにかく食堂が空いていて、のんびりできます(私が1月末に信州にスキーに行ったときは、食堂の席を確保するのに苦労したのが嘘みたくです。)

食堂では、T2の岡本氏から差し入れていただいた食後のコーヒーをいただきました。

岡本氏は、先日の手術により今回参加できなかったのですが、スキーはジャンプで国体選手とのこと、来年は是非参加いただきたいものです(ジャンプの指導は遠慮しておきます(笑))。

午後からも、カービングの指導を受けましたが、なんだかうまくなってきたような気になるのは不思議なモノです。午後、広々としたゲレンデを有効に使いながら、スキーを満喫できました。スキーは4時頃に上がりましたが、足には疲労がたまってたくた、傾斜がある程度あるときは良いのですが、緩くなってくると、ほとんど足がつる直前のようになっていました。「全然大丈夫」とやせ我慢していましたが、内心は泣きそうになっていました。

2日目もゆっくり風呂に入った後、ビュッフェスタイルの夕食&宴会の開始、昨日とは又違ったメニューに大満足、お酒も進み楽しい一時でした。夕食後おきまりの2次会でしたが、流石に皆さんお疲れモード、そこそこで解散となりました。

▶ 第3日目

合宿も本日が最終日、最後の仕上げの一日です。本日は土曜日、混んでくるのかと思いきや、本日もゴンドラ・リフトは待ち時間なしと、最高のゲレンデです。

下に下りてくると、少し雪が重くなっていましたが、上のゲレンデは全く問題なし、天気も良くなり、頂上からは日本海・津軽海峡・北海道が望める絶景を楽しみながら、最終日のスキーを楽しみます。翌日競技会があるということで、ゲレンデの一角がその会場にり当てられていましたが、横で公開練習に参加している子供たちがかつとんでいるのを眺めながら、レース参加の気分で滑れました。

あっという間に午前中が過ぎて、名残惜しい気持ちを残して、3日間のスキー合宿は終了、お風呂には行って身支度をして、最後のお昼ご飯、当然反省会の小宴会に早変わり。本当に3日間、よく飲みました！

▶ まとめ

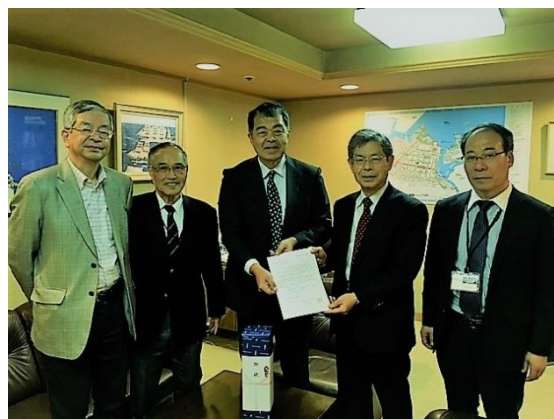
素晴らしいゲレンデ、佐藤インストラクターの優しい指導とで、充実した3日間の合宿はあっという間に終わってしまいました。スキー部長本間さん、インストラクター佐藤さん本当にありがとうございました。

早くも、来年は1月25、26、27日の3日間で合宿のスケジュール案が出されています。

今年参加されなかった方、来年は是非一緒しましょう。お岩木山が待ってます！

帆船日本丸が国の重要文化財指定に

3月10日に国の文化審議会は帆船日本丸を重要文化財に指定することについて、文部科学大臣に答申しました。これによって帆船日本丸が、国の重要文化財に指定される見通しとなりました。当合唱団では3月20日(月・祝)に、山路団長・木村さん・鶴野の3人で記念財団を訪問してお祝い状とお祝いのお酒(津軽・じよっぱり)を金近会長にお渡ししました。



右から 財団佐野総務部長、金近会長、山路団長、木村さん、鶴野
以下は贈呈したお祝い文です。

公益財団法人帆船日本丸記念財団

会長 金近 忠彦 殿

常務理事 帆船日本丸船長 飯田 敏夫 殿

この度は国の重要文化財指定を受けられる運びとなり、誠にありがとうございます。ひとえに理事長はじめ貴財団の方々の長年のご努力の賜物と拝察いたします。

優雅で美しい帆船の水上保存は、みなと横浜になくてはならない景観シンボルとして溶け込んでいます。みなと博物館と日本丸の一体となった歴史的財産が、まさに重要文化財にふさわしい施設と認定されたものと考えます。

この国の重要文化財指定の答申の報に接して当合唱団としても大変誇らしい気持ちで一杯となりました。当合唱団には多くのかつての船乗りが在籍しています。また入団してから日本丸のファンになった団員も少なからずおります。メインのレパートリーはシーシャンティ、即ち海の歌で、毎週火曜日に訓練センターの教室を使用させていただいて練習に励んでいます。

随時要請があれば種々の会合などで演奏をしています。その都度『帆船日本丸』のアピールに努めていますが、これからは『重要文化財の』と付け加えさせていただきます。今後とも海の歌を歌いながら、帆船日本丸をアピールして行く所存です。

この度は本当におめでとうございます。

団員一同を代表して簡単ながら お祝いの言葉とさせていただきます。

2017年3月20日

帆船日本丸を愛する男声合唱団

団長 山路 永司